

女性だからこそ喜んでもらえる。出来上がる過程が楽しい、土木施工管理の仕事

(取材日：2023年12月)

産業建設株式会社工事部【浦田星さん】

1. この仕事に就いたきっかけは？

憧れのいとこのお姉ちゃんと同じ高校の「土木科」に進学。屋外に出てさまざまなことが学べる科が良いなと思って、土木科を選びました。

高校2年生の夏のインターンシップ先が、今、勤めている「産業建設」。現場でどのように仕事をするかなどを見学してもらい、最終日のお昼にはBBQを開催してくれたんです。みんなで食事に行ったりと仲が良く、就職するならここにしようと思い、希望を出しました。



2. どんな仕事をしているのですか？

産業建設は、道路舗装や、水道管工事などの公共事業を中心に行っている会社。時々、作業現場を見られた方や民間企業から、駐車場等の補修工事などを依頼されることもあります。私の仕事は、公共工事の施工管理がメイン。ひとつの現場は半年から2年半ほどと長くなり、近くに現場事務所を借りて、作業します。実際の業務は、現場の測量、申請等の書類作成、現場の進捗管理など。工事が完了すると見えなくなる部分は、進捗状況を写真で記録していく必要があります。

また、工事開始前の現場事務所や駐車場、資材置き場の手配、地域住民への説明文書の作成や訪問説明も私の仕事です。

3. 仕事の魅力はどんなところですか？

ふとした時に現場での日々の積み重ねを感じ、「こんなに仕事してきたんだな」と達成感があります。

また、公共工事の場合は、見栄え、報告書等の仕上がりが点数で評価されます。良い点数をとればやはりうれしいですし、社員みんなのやる気に繋がります。

今の現場は、静岡市内の水道管を「耐震性の高いものに置き換える」工事。水道の水を止めることもあるので、地域住民への説明が必要になります。私のような女性が現場にいと、住民の方も話しかけやすいようで、工事の内容など様々な質問を受けます。説明を聞いて納得いただけたときも、嬉しい気持ちになりますね。



4. 何か資格や専門の勉強は必要ですか？

高校生のとき、2級土木施工管理技士の学科試験を受講して、入社後、実務経験を経て資格を取得しています。来年、1級の受験資格が得られるので、取得したいなと思っています。

工事現場には「監理技術者」を置く必要があるのですが、これは1級の資格が必要。私はまだ「現場代理人」という扱いになります。会社が交通費を含め3回まで受験費用を補助してくれるので、早く1級を取得して、「自分の現場」と誇れるようになりたいですね。

また、現場への移動が必要なので、車の免許は必要だと思います。私の場合、会社の費用で準中型免許の資格も取得しています。ダンプなどのトラックを、現場の人の代わりに移動させることも多いです。

5. 女性が少ない業界ですが、働きにくさはないですか？

今、入社5年目ですが、私が就職した年に初めて2人の「女性の土木施工管理技士」を採用しています。その際に女子更衣室や女性用シャワー室を用意してくれたり、設備面でも配慮してくれました。

男性中心の業界の印象が強いと思いますが、最近は現場でも女性が増えてきました。女性専用のトイレの設置も進み、働きやすい環境が整ってきていると思います。

6. 後輩の方へのメッセージをお願いします。

建設・土木業界というと、きつい・危険・汚いの3Kのイメージがあるかもしれませんが。私はネイルをして、デスクには好きなキャラクターを飾って、目に入るものも楽しみながら仕事をしています。

実は運動が苦手。でも、外に出るのが好きなので、この仕事を選びました。女性がいると現場の雰囲気も良くなるようで、みなさんがとても気にかけてくれて、仕事もしやすいです。

